

「主な活動（概要）」（中学校）

【学校名】北竜町立北竜中学校
【活動の名称】 命とからだの話・赤ちゃんふれあい教室
【活用した資源】町内の「すこやかセンター」、 深川市立病院助産師1名、町保健師2名
【対象学年と活動の時期】3年生 6月

(項目ア—観点③環境づくり)

【活動の概要】

- ・助産師さんから「命とからだの話」をしていただき、その後の「赤ちゃんふれあい教室」で、赤ちゃんふれあい体験・妊婦疑似体験及び協力してくれた親子との交流を行う。

【ねらい】

- ・自分の体が、子どもから大人のからだに変わっていくことを実感する時期に、性に関する正しい知識を理解するとともに、命の大切さを知ることにより、これからの自分の生き方につなげる。

【活動の流れ】

- ①関係機関と連絡調整をする。〈担当教諭・養護教諭〉
- ②助産師さんから「命とからだの話」（生命の誕生・二次性徴～まとめ）を聞く。
※お礼（感想）の手紙を書く。
- ③「赤ちゃんふれあい教室」のオリエンテーションに参加する。
 - ・スタッフ紹介及び教室の目的の説明
 - ・子育ての大変さについての理解
 - ・赤ちゃんの発達と扱い方
 - ・手指消毒
 - ・抱っこの練習



〈赤ちゃんの発達の説明〉



〈抱っこの練習〉



〈妊婦体験〉

- ④生徒の自己紹介をする。
- ⑤3グループに分かれて、赤ちゃんふれあい体験と妊婦疑似体験を行う。
- ⑥各グループから質問をする。

【各グループからの質問】

- ・「出産の時はどれくらい痛かったですか？」
- ・「子育てで一番大変なことは何ですか？」
- ・「夜中に赤ちゃんが起きたらどう対処しますか？」
- ・「赤ちゃんの行動で一番うれしかったことは何ですか？」
- ・「お腹に赤ちゃんがいた時はどんな感じてましたか？」
- ・「名前の由来は何ですか？」



- ⑦協力してくれた親子へのお礼と感想を述べる。
- ⑧事前に保護者に依頼していた「家族からの手紙」を受け取る。
- ⑨アンケートを記入し、まとめを行う。
- ⑩協力していただいた親子、お世話になった保健師さんへお礼の手紙を書く。

〈お礼の手紙①〉

〇〇お母さんへ
今日は赤ちゃんふれあうことができて、とても楽しかったです。色々なお話を聞いてよかったです。すごく勉強になりました。将来に生かせたらいいなと思っています。今日は本当にありがとうございました。



〈お礼の手紙②〉

保健師さんへ
今回は赤ちゃんふれあい教室で赤ちゃんがどのように成長していくかなど、分かりやすく教えていただきありがとうございました。



【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・命の大切さや家族からの愛情をしっかりと受けているという実感をもつなど、感謝の気持ちや思いやりの心を育てることができた。
- ・グループによる話し合い活動に仲間と意欲的に取り組もうとする生徒が増えた。

- 妊娠や出産について、女性として、また男性としてどのよう関わるかを学ぶことにより、生命を大切にしようとする心を育てることがつながっています。
- 母親との交流を通して、親の愛や育児の喜びを知ることにより、命の誕生を自分のこととして捉え、親への感謝の気持ちをもつことにもつながっています。



「主な活動（概要）」（中学校）

【学校名】北広島市立西の里中学校
【活動の名称】 体育祭（縦割りチーム会議）
【活用した資源】3年生のリーダー
【対象学年と活動の時期】全学年 5月下旬

（項目ア—観点②絆づくり）

【活動の概要】

- ・全学年を6つの縦割りチームに分け、対抗戦を行う。
- ・事前の練習や当日のチームごとの動きは、リーダーを中心に活動する。

【ねらい】

- ・運動に親しみながら、体力の向上と心身の充実を図る。
- ・生徒会活動、縦割り活動を通し、集団への所属感や連帯感を高めるとともに、先輩と後輩の望ましい人間関係を築かせる。
- ・生徒会役員や各委員長、3年生がリーダーとして活躍できる場を設定する。

【活動の流れ】（縦割りチームに関わる部分のみ記載）

- ①担当教師が生徒の運動能力やリーダー性、学年の人数配分を考慮しながら、6つの縦割りチーム編成を行う。
- ②チーム別会議において、3年生のリーダーを中心に、チームの目標、100m出走順、3回の長縄跳びの参加順番、玉入れの戦法、選抜リレーの選抜選手、全員リレーの出走順、チーム別練習の内容などを決める。

3年生のリーダーを中心にチーム別会議を行っています。



チームの目標、各種目の参加選手、戦術などを決めています。



- ③チーム別練習において、全体練習以外は、常に3年生を中心としたチーム別練習を行う。
- ④体育祭当日において、リーダーを中心にチーム単位で行動する。



開会式の入場行進です。青・赤・黄・緑・桃・白の色分け6チームです。がんばるぞお！



閉会式での表彰です。今年は桃チームが優勝しました。下級生がリーダーに憧れる瞬間です。



閉会式が終わり、チームごとに反省会を行います。百人一首大会もこのチームで参加します。

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・異年齢での交流を通して、互いを認め合う心や思いやる心が育まれた。
- ・体育祭終了後の日常生活や行事において、3年生のリーダーシップが発揮される場面が増えた。
- ・3年生の頑張る姿を見て、下級生が次年度以降の自分の姿をイメージすることができた。
- ・異学年間の生徒指導上のトラブルが減少した。

- 全校生徒を6チームに分け、教師全員が各チームを担当することにより、各チームの状況を把握するなど、適切な支援をすることができています。
- 学年を越えた交流の場をつくることにより、3年生がリーダーとして活躍する場面が増えるとともに、全校生徒が互いを思いやったり、認め合ったりすることにつながっています。



「主な活動（概要）」（中学校）

【学校名】北広島市立西の里中学校	<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																
【活動の名称】 百人一首大会（縦割りチーム会議）																	
【活用した資源】体育祭と同じチーム																	
【対象学年と活動の時期】全学年 1月下旬																	
（項目ア—観点②絆づくり）																	
【活動の概要】 <ul style="list-style-type: none"> 今年度で32回目を迎える代表委員会主催の伝統的な行事であり、体育祭同様、チームごとに練習や活動を行う。 																	
【ねらい】 <ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統文化である百人一首を通して、互いに協力し合い、チームの結束を高めあう意識を育てる。 生徒一人一人が意欲をもって学校行事に積極的に参加する態度を養う。 																	
【活動の流れ】（縦割りチームに関わる部分のみ記載）																	
<ol style="list-style-type: none"> ①体育祭と同じチーム（リーダーも同じ生徒とする）で参加する。 ②チーム別会議において、6つのグループに分け、リーダーを中心に、戦法について話し合いを行う。 																	
	<p>体育祭と同じメンバーによるチーム別会議を行っています。</p>	<p>グループ分けをするため、個々の能力を把握するための実力チェックをします。</p>															
<ol style="list-style-type: none"> ③体育祭同様、3年生を中心としたチーム別練習を行う。 																	
	<p>体育館でチーム別練習を行います。頭にハチマキを巻き、正座で練習開始です。</p>		<p>優勝目指して、各チームの気合のこもった練習が始まります。</p>														
<ol style="list-style-type: none"> ④百人一首大会当日において、リーダーを中心にチーム単位で行動する。 																	
	<p>白熱した試合が始まりました。</p>																
<p>地域の方も参戦します。</p>		<p>緑チームが優勝しました！</p>															
【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】																	
<ul style="list-style-type: none"> 異年齢での交流を通して、お互いを認め合う心や思いやる心が育った。 百人一首大会後の日常生活や行事において、3年生のリーダー性が発揮される場面が一層増えた。 3年生の頑張る姿を見て、下級生が次年度以降の自分の姿をイメージすることができた。 学年間のトラブルがほとんどなくなった。 																	

- 体育祭で協力し合った仲間と同じチームを再編成することにより、縦割りチームで優勝を目指して一層がんばろうという士気を高めることができます。
- 体育祭などと同様に、3年生がリーダーとして活躍する場面となり、リーダー性が養われるとともに、下級生に次年度以降の学校行事の運営の見通しをもたせることにつながっています。



「主な活動（概要）」（中学校）

【学校名】小樽市立長橋中学校
【活動の名称】 歌でつながるプロジェクト
【活用した資源】小学校、老人福祉施設
【対象学年と活動の時期】全学年 2学期

（項目ウー観点①居場所づくり）

【活動の概要】

- ・2学期の文化祭の合唱コンクールに合わせて練習した成果を、異学年の有志で編成したメンバーが出身小学校や地域の老人施設等を訪問して披露する。

【ねらい】

- ・地域の中で支えられていることを自覚し、地域社会へ積極的に関わる態度を養う。
- ・地域の方々への日頃の感謝の気持ちを歌で伝える。
- ・中学生ががんばっている姿を見ていただき、学校の様子を発信する。
- ・地域の様子を理解するとともに、歌で地域や生徒、生徒同士がつながりよりよい学校生活に生かす。
- ・小学校6年生とつながることにより、中一ギャップ防止の一助とする。

【活動の流れ】

- ①生徒会から『歌で地域と仲間とつながる』をコンセプトとし、「Musicの奏～つながる思い」をテーマに生徒が在籍していた小学校、老人福祉施設訪問を企画する。
- ②訪問先ごとに異学年集団での合唱練習をする。
- ③老人福祉施設、出身小学校に訪問して歌を披露する。



〈出身小学校にて〉



〈老人福祉施設にて〉

【プログラム】

- はじまりの言葉
- 校歌披露（説明を含む）
- 合唱披露（2曲）
- 交流
- 訪問先から挨拶
- 写真撮影
- 終わりの言葉

- ④生徒会が文化祭でこの取組を映像で紹介し、感想等を発表する。
- ⑤文化祭の反省とともにこの活動を振り返り、感想等を書く。

～生徒アンケート・感想より～

★生徒アンケートから 「来年もあったら参加しますか」 【はい 88% いいえ 12%】

- 「元気が出た」といってくれてうれしかった。○人の役にたてたと思った。○音楽で地域とつながるっていいなと思った。○たくさんの人とつながってよかった。○これからも続けて欲しい。
- 地域との交流が深められた。○小学校では体験できないことができた。 など

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・活動を通して、生徒同士が学年の枠組みを越えて練習や準備をし、本番を体験することにより、互いの共感的理解がより深まった。
- ・地域の人々が歓迎や感謝する言葉掛けや歌声を聞き涙する場面を見て、一人一人が自己有用感をもつことができた。

- 生徒は、合唱を通して、児童や地域の人々に感動を与えることができたことを実感することにより、自己有用感を高めることができています。
- 学習の成果を生かして、小学生や地域の人々とつながることができたことから、生徒は、中学生として、自分たちにも地域でできることがあることに気付くことにつながっています。



「主な活動（概要）」（中学校）

【学校名】小樽市立長橋中学校
【活動の名称】 毎月6の付く日は生徒憲章の日
【活用した資源】 生徒会が主体となって制定した生徒憲章
【対象学年と活動の時期】全学年 通年

（項目エ—観点②絆づくり）

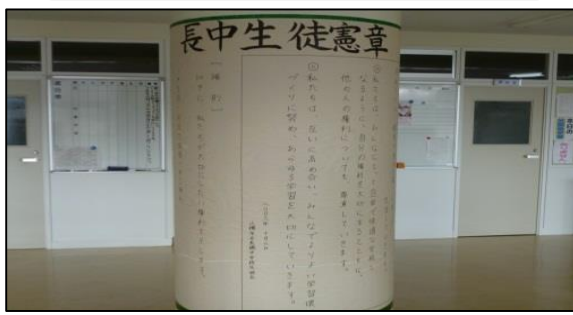
【活動の概要】
 ・生徒会が中心となって、本校の先輩が制定した5つからなる生徒憲章を、全校生徒に朝の放送や生徒会便り等で啓発し、学校をさらによくするために一人一人の権利や自由を再考する。

【ねらい】
 ・本校の先輩が制定した生徒憲章を全校生徒に呼び掛け再認識することにより、よき伝統を引き継いでいこうとする意識や生徒同士の絆を育む。
 ・生徒一人一人がもつ生徒憲章の5つの権利を意識することにより、いじめなどを未然に防止する。
 ・生徒憲章を定着させることにより、生徒が学校を自分たちの手でよりよいものにしていこうとする態度や責任感を育む。

【活動の流れ】
 ①生徒会が先輩から引き継ぐ生徒憲章を踏まえ、さらによりよい学校にするための手立てを考える。

※生徒会が右の5つの生徒憲章を生徒に呼び掛ける日として、この憲章が制定された平成18年10月6日から「毎月6の付く日は生徒憲章の日」としています。

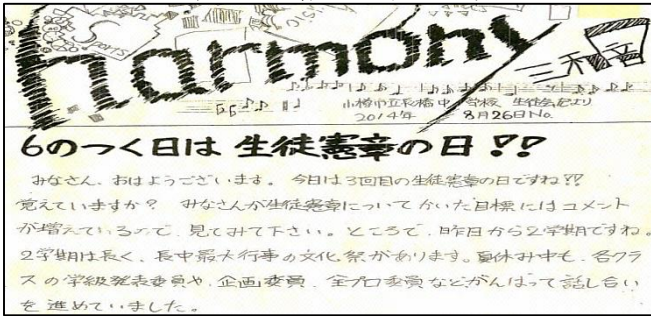
《生徒憲章》
 一、差別がなく、みんな平等である。
 一、安心して生活できる。
 一、自由に考え、自由に意見を言い表せる。
 一、お互いが協力し合うことでお互いに信頼関係をもつ。
 一、みんなが人として権利と自由を大切にする。



〈玄関の支柱に記される生徒憲章〉



〈生徒憲章を踏まえた個人目標〉



〈生徒会だより〉

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】
 ・生徒憲章の内容を様々な面から意識化することで、生徒が他者を尊重し互いの権利を守ろうとする態度が見られるようになった。
 ・各行事を通して生徒同士が互いを思いやり、一致団結して協力し取り組む機会が多くなった。

- 生徒憲章の内容と学級活動や学校行事のねらいなどを関連付けることにより、より明確な目標が設定でき、生徒一人一人が自分の役割について考え行動することにつながっています。
- 生徒一人一人が、生徒憲章の内容を意識し学校生活を送ることで、互いを尊重する態度や思いやりを育むことができています。

